



①



②

People prayed to God.
(Koshiki Yabusame *)

As soon as a young boy appears wearing the traditional costume, the venue will be enveloped in a thick silence. As one enters the site lead by Kuchitori (a horsekeeper) and shoots an arrow from the back of the running horse, big cheers arise from the crowd. The horse riders perform by horsewhipping and paper fan, scattering rice cakes and oranges and receiving a lot of applauses.

At Moroyama, Yabusame is held every spring on the second sunday of March and autumn on the 3rd of November.

Its origin is said to be that Minamoto no yoriyoshi and yoshiie (father and son) expressed their deep gratitude to God for the victory won during the war in 1063.



③

もろやま

毛呂山町勢要覧2010

道標

みちしるべ



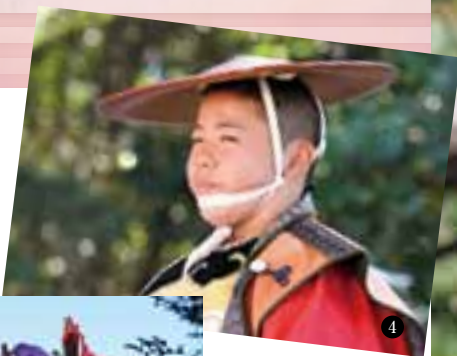
歴史を紐解くこと、それは——
なぜ、今の姿があるのかを
理解すること。
未来に想いを馳せること、それは——
今、何をすべきなのかを
考えること。
これは、時空を超えて毛呂山を
旅するための道標です。

Moroyama Signpost

We learn history to understand how the present has been developed. We look forward to the future to think what we should do now. This is a signpost for the journey to Moroyama beyond space and time.



6



4



5

- 1 願的がんたつの瞬間。精神を統一し、的を見つめる。
- 2 かけ声とともに全力で走る口取り。
- 3 勝海舟の書と伝えられる出雲伊波比神社いはいのほりの幟。
- 4 馬場入り直前の真剣なまなざしの乗り子。
- 5 源氏・藤原氏・平氏を表す3色の旗。
- 6 ムチ、扇子などの馬上芸も披露。
- 7 乗り子、祭馬、口取りが呼吸を合わせる一瞬。



7



古式「流鏝馬」

平安時代から連綿と受け継がれてきた出雲伊波比神社の流鏝馬。武運長久を願い、凱旋の際に奉納された。人々の志と心意気を神に示すべく、まっすぐに、ひたすらに、矢は放たれる。

かつて、人は、神に願った

若武者が姿を現すと、ざわめいていた馬場に、水を打ったかのような静寂が訪れる。凜々しさのなかにもあどけなさが残る乗り子は、まだ10代の少年。蹄の音も高らかに、疾風のごとく駆け抜ける一馬。張りつめた空気を切り裂くように、馬上から放たれる矢。どつと湧き上がる歓声と拍手のなかを、引き続き、二の馬、三の馬が、怒涛のごとく駆け抜けて行く…。

現在、県内に残っている流鏝馬は、毛呂山町とときがわ町萩日吉神社の2か所のみ。毎年奉納される流鏝馬は毛呂山町だけとなっています。約950年の歴史を誇る毛呂山の流鏝馬は、他所の流鏝馬では見られないような古式ゆかしい式次第によって進行するのが特徴。平成17年には県の無形民俗文化財に指定されました。流鏝馬を行う馬は3つの当番区から出されており、先頭を走る一馬は白で源氏、続く二の馬は紫で藤原氏、最後の三の馬は赤で平氏を表していると言われています。源平を表す紅白の取り合わせに藤原氏の紫が加わっていることは、この流鏝馬が、かつてこの地に土着して毛呂氏を名乗った藤原氏一族

This is the only place in Saitama Prefecture where Yabusame is dedicated every year. Moroyama's Yabusame boasts about its 950 years of history and was designated as a Prefectural Intangible Cultural Heritage in 2005.

It is unusual in Japan to take young boys as the archer called Noriko. Noriko are selected among all male children whose family members were not involved in any mourning events. They work and train hard for the various ceremonies for 10 days.

の影響が強かったことを表しているようです。

乗り子と呼ばれる射手が少年であることは全国でも珍しく、毛呂山の流鏑馬の大きな特徴となっています。乗り子は忌事いみごとのなかつた氏子から選ばれ、流鏑馬当日を迎えるにあたり、

厳しい稽古・精進を重ねるとともに、およそ10日間にも及ぶ様々な儀式に参加しなければなりません。秋の流鏑馬の場合、まず、10月下旬に祭馬まつばを借りて「稽古始め」となり、早朝と夕方毎日の「稽古」を経て、俗世間の穢けがれを祓はらい、神に

近づくための「お精進」、馬に乗って町を練り歩く「重殿行き」と「町廻り」、神職と共に行う「饗応きようおう」…と、本番に向け、準備が進められていきます。これらの儀式の一つひとつが乗り子の士気を高めるとともに、町中の人びとの祭り気



分を盛り上げ、地域が一丸となつて流鏑馬を成功へと導くための大事なプロセスとなっているのです。流鏑馬のメインは午後の夕ゆうまつうです。午後2時ごろ、花笠に陣羽織、背中には母衣はもを背負い、腰には太刀を佩はき正装した乗り子が、

う一行による馬みせ、凱旋がいてんのお礼として一の馬だけが行う願的、正装を着替え、馬場を一往復するジニミチのあと、矢的と呼ばれる騎射が行われます。一瞬の静寂を突き破り、乗り子が放つた矢が、パンという音と

に、伝統や風土に根差した民間信仰とも深い関わりがあることを物語っています。流鏑馬が奉納される出雲伊波比神社の本殿は埼玉県最古の神社建築で、昭和13年に国宝に指定され、その後、文化財保護法制定にともない、昭和28年に

国指定重要文化財となりました。

なお、春の流鏑馬は、「七つうちは神の子」とされる7歳前の小さな男の子が主役。白・紫・赤の3色で飾り立てられた花笠と赤い陣羽織で盛装したその姿は、まるで小さな武者人形のようなのです。こちらは1日限りの祭り、祭馬も1頭のみ。的も願的のみで、射る矢も1本限りで行われます。秋の流鏑馬と比べると穏やかな雰囲気の流れ馬ですが、早春のうららかな日差しを浴び、和やかに行われる流鏑馬もまた、毛呂山の人びとにとって大切な年中行事の一つです。

矢取りと大勢の口取りを従え、毛呂本郷の的宿を出陣。通りでは追

出の餅が派手にまかれ、そのなかをホイホイという勇ましいかけ声とともに神社へ。

馬場では、あふれんばかりの観衆が見守るなか、乗り子につき従

もに的板に命中すると馬場は大きな歓声に包まれます。

射られた矢は、古来より「蚕室さんしつに置くと蚕かいしが当たる」「子どもの夜泣きが治る」などと言われ、縁起物として珍重されています。これは、流鏑馬が神事であるとともに

みで、射る矢も1本限りで行われます。秋の流鏑馬と比べると穏やかな雰囲気の流れ馬ですが、早春のうららかな日差しを浴び、和やかに行われる流鏑馬もまた、毛呂山の人びとにとって大切な年中行事の一つです。

At Yabusame held in spring, a boy younger than seven years old plays the lead role. He wears a beautiful decorated hat and red battle surcoat is like a little warrior doll. This is a one-day festival and only one arrow is shot. Yabusame is held on a warm spring day and is one of the important annual events for people of Moroyama.

*Yabusame is a military art where a person discharges an arrow while riding on a running horse.



1



3



2



4

- 1 前日に行われる「重殿行き」と「町廻り」。前久保祭礼宿で焼米の饗応を受け、再び町へ。
- 2 三頭の馬で町を練り歩く。
- 3 戦国絵巻さながらの野陣のじゆん。柿などの饗応を受ける。
- 4 的宿めがねを出陣。屋根の上から餅がまかれる。

春の流鎗馬



3



1



2

- 1 的宿を出発。神聖な儀式にのぞむ前に緊張感が漂う。
- 2 春の流鎗馬の主役は幼い男の子。武者人形のような愛らしい姿に、人びとの歓声が上がる。
- 3 乗り子の頭上には、母親の象徴といわれるオカイドリ(小袖)が掲げられる。